



決算報告会

2024年10月31日

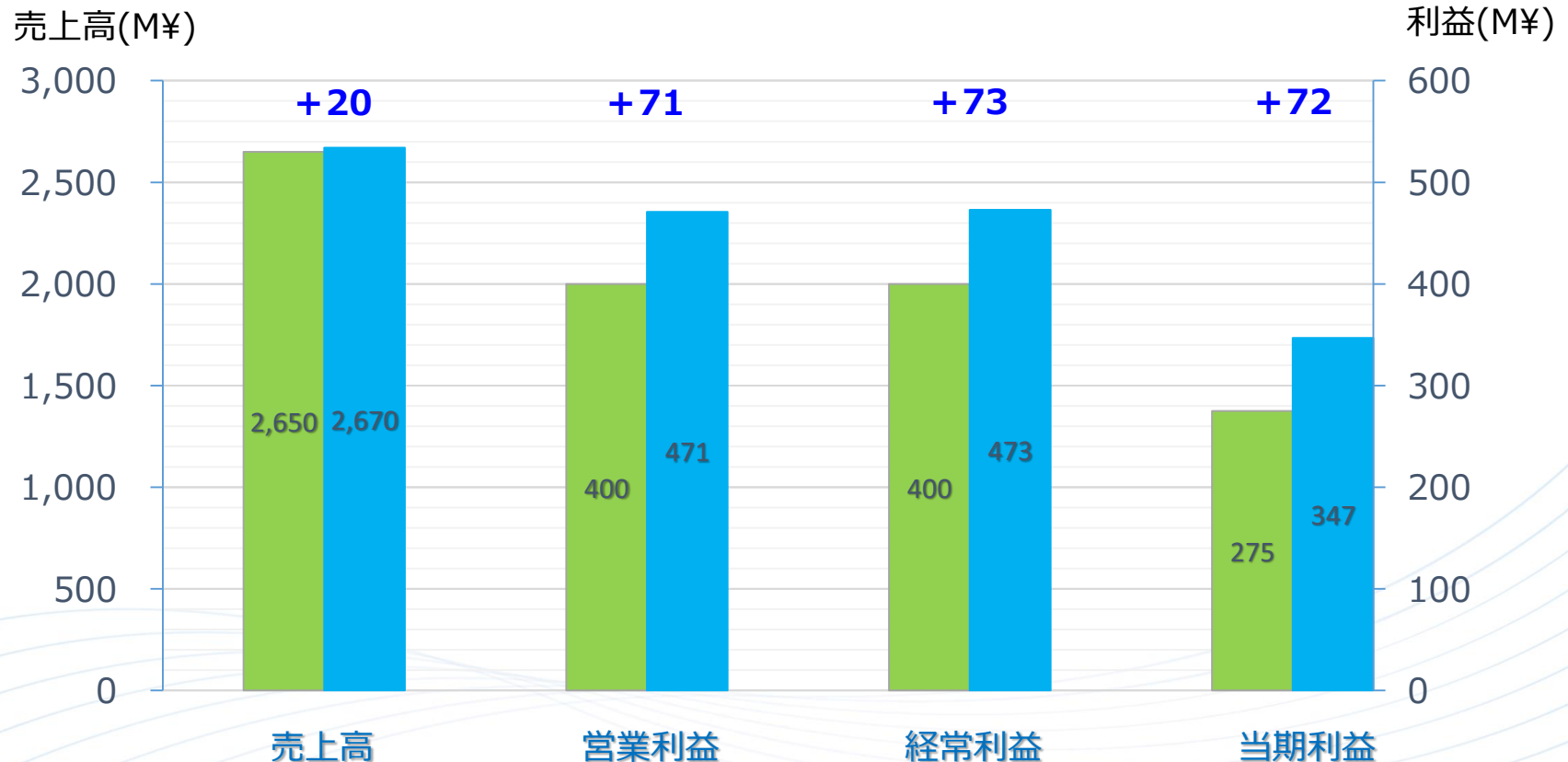
株式会社カインズ
代表取締役社長
長津 行宏

2024年度 上期決算

2024年度 上期決算

売上高及び各段階利益は開示額を達成

■ 2024年度 上期予想 ■ 2024年度 上期実績



2024年度 上期決算 (対予想)

(単位：百万円)

		2024年度 上期予想	2024年度 上期実績	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	2,250 (85.0%)	2,303 (86.3%)	53	2.4
	商品	400 (15.0%)	367 (13.7%)	▲33	▲8.3
	計	2,650 (100 %)	2,670 (100 %)	20	0.8
営業利益		400	471	71	17.8
経常利益		400	473	73	18.3
当期純利益		275	347	72	26.2

2024年度 上期決算 (対前期)

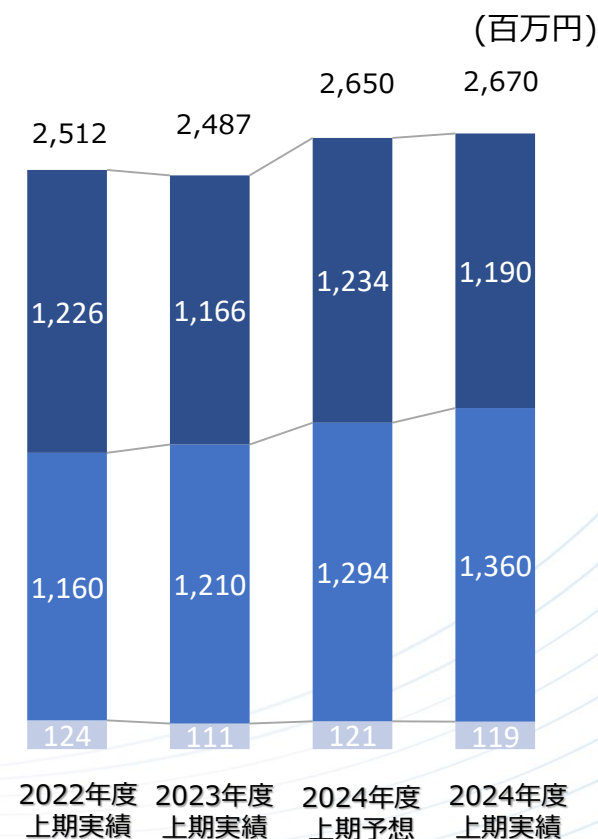
(単位：百万円)

		2023年度 上期実績	2024年度 上期実績	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	2,124 (85.4%)	2,303 (86.3%)	179	8.4
	商品	363 (14.6%)	367 (13.7%)	4	1.1
	計	2,487 (100 %)	2,670 (100 %)	183	7.4
営業利益		517	471	▲46	▲8.9
経常利益		525	473	▲52	▲9.9
当期純利益		370	347	▲23	▲6.2
当期純利益率		14.9%	13.0%	—	—

売上高(検査分野別)

- ・生化学事業は、予想に対して未達であったが、免疫検査事業でカバーし、全体として予想、前年額をともに達成

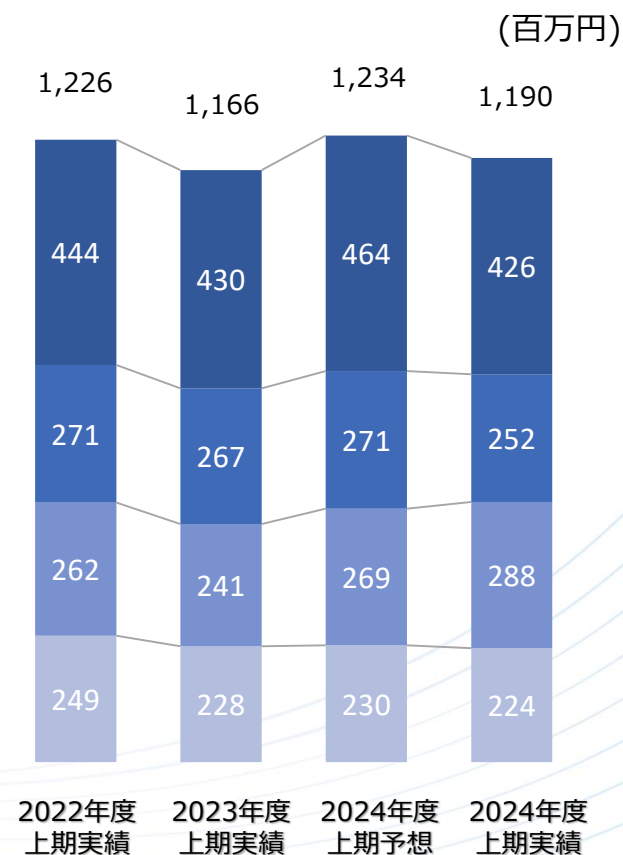
	2022年度 上期実績	2023年度 上期実績	2024年度 上期予想	2024年度 上期実績	期初予想比 増減額
生化学	1,226	1,166	1,234	1,190	▲44
免疫	1,160	1,210	1,294	1,360	66
その他	124	111	121	119	▲2
合計	2,512	2,487	2,650	2,670	20



売上高(生化学)

- ・大学病院はじめ基幹施設へマルチキャリブレーターを活用し、更なるシェアアップに向け提案しているが、採用時期が遅延

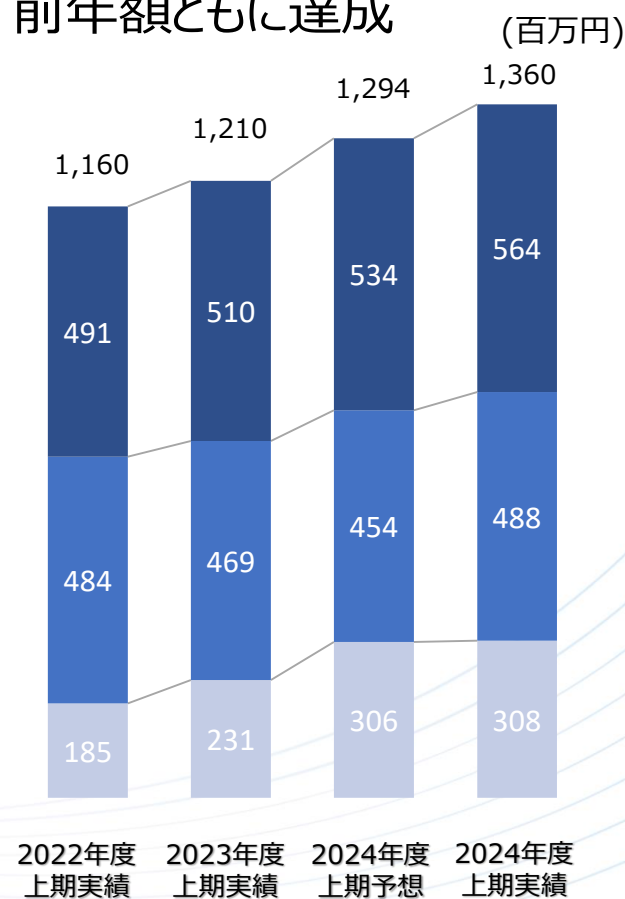
	2022年度 上期実績	2023年度 上期実績	2024年度 上期予想	2024年度 上期実績	期初予想比 増減額
腎機能	444	430	464	426	▲38
肝機能	271	267	271	252	▲19
糖尿病	262	241	269	288	▲19
その他	249	228	230	224	▲6
合計	1,226	1,166	1,234	1,190	▲44



売上高(免疫)

- ・輸血 (除 機器) : 昨年度末の基幹施設での機器新規設置により
予想、前年額ともに達成
- ・腫瘍マーカー、その他 : PCT拡販が貢献し、予想、前年額ともに達成

	2022年度 上期実績	2023年度 上期実績	2024年度 上期予想	2024年度 上期実績	期初予想比 増減額
輸血 (除機器)	491	510	534	564	30
腫瘍 マーカー	484	469	454	488	34
その他	185	231	306	308	2
合計	1,160	1,210	1,294	1,360	66



2024年度の取り組み

1. 営業・学術活動
2. 新製品開発
3. 効率化・コスト削減
4. 法令等対応

営業・学術活動

- 1) 生化学試薬の拡販
- 2) プロカルシトニンの垂直拡販
- 3) 輸血事業のシェア20%獲得

2024年度の取り組み：営業・学術活動

1) 生化学試薬の拡販

- ・クレアチニン (CRE)：トップシェアの奪取

目標： 863施設 ⇒ 1,000施設

- ・マルチ9項目のシェアUP

(CRE, UN, UA, IP, Ca, Mg, GL, TP, ALB)

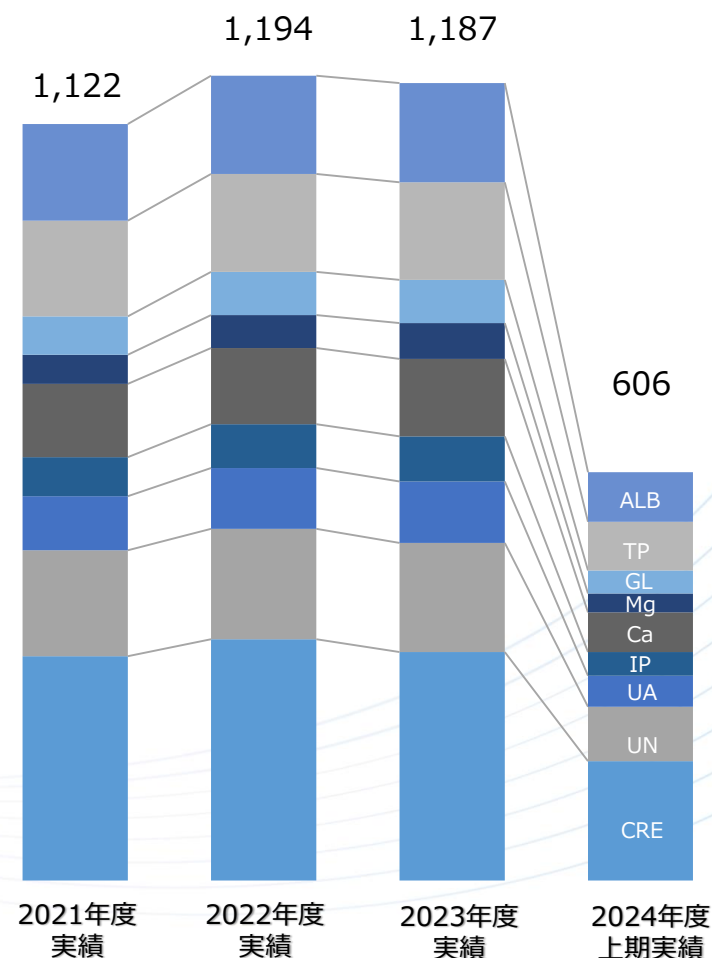
目標： 2,036施設 ⇒ 2,200施設

1,187百万円 ⇒ 1,400百万円

- * プロカルシトニンとのセットランニング推進
- * 機器メーカーと協業した提案
- * リキッドキャリブレーターの利便性改良品上市
顧客へ再提案



(百万円)



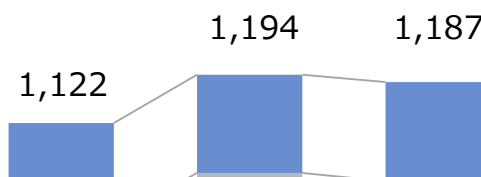
2024年度の取り組み：営業・学術活動

1) 生化学試薬の拡販

・クレアチニン (CRE)：トップシェアの奪取

目標： 863施設 ⇒ 1,000施設

(百万円)



学術活動： クレアチニン試薬に関する学会発表

- ・第64回 日本臨床化学学会年次学術集会 (8/30-9/1, 宇都宮)
- ・演題名「新規前処理法を用いたクレアチニン測定試薬の開発」

【発表概要】

- ・腎臓病の診断指標 (eGFR) 用いられるクレアチニン (CRE) は低濃度の正確性が重要となる。新開発したCRE測定試薬は、従来試薬より低濃度域から高濃度域まで正確性に優れていた

2024年度の取り組み：営業・学術活動

1) 生化学試薬の拡販

- ・クレアチニン (CRE)：トップシェアの奪取

目標： 863施設 ⇒ 1,000施設

- ・マルチ9項目のシェアUP

(CRE, UN, UA, IP, Ca, Mg, GL, TP, ALB)

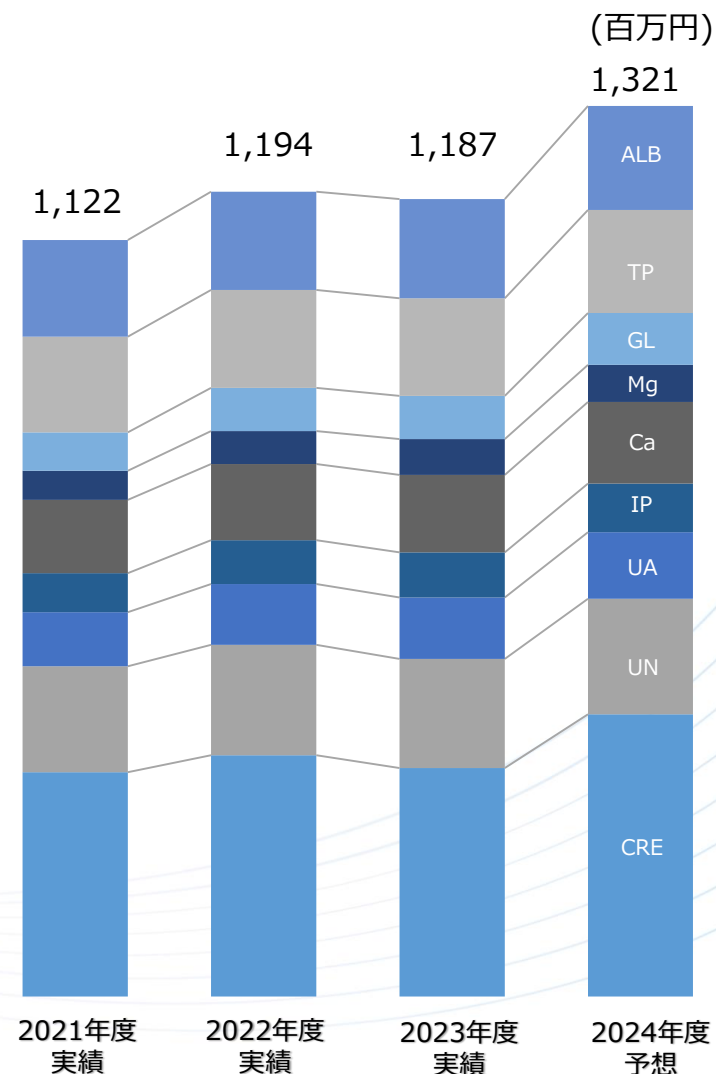
目標： 2,036施設 ⇒ 2,200施設

1,187百万円 ⇒ 1,400百万円

* プロカルシトニンとのセットランニング推進

* 機器メーカーと協業した提案

* リキッドキャリブレーターの利便性改良品上市
顧客へ再提案



2024年度の取り組み：営業・学術活動

2) プロカルシトニンの垂直拡販

- ・採用 100施設、年間売上 1億円の早期突破

- * 大学病院での受託研究及び学会発表、文献投稿の推進

 - ⇒ 6 大学で共同治験

 - ランチョンセミナー 2演題、学会発表 4演題

- * 専用機からの切替、マルチ9項目採用への相乗効果の推進

2024年度の取り組み：営業・学術活動

2) プロカルシトニンの垂直拡販

学術活動： プロカルシトニン試薬の紹介

- ・第64回 日本臨床化学学会年次学術集会 ランチョンセミナー (8/31, 宇都宮)
- ・演題名 「汎用生化学自動分析装置を用いて約10分で定量できるようになった今日、プロカルシトニンを臨床でどう活かすか？」

- ・座長 : 大西 宏明
(杏林大学 医学部附属病院)
- ・演者 : 間藤 卓
(自治医科大学 医学部)



2024年度の取り組み：営業・学術活動

3) 輸血事業のシェア 20%獲得

・機器設置目標施設：421施設 ⇒ 500施設

- * 機器の優位性を生かした新規及び更新プロモーション
- * 新製品：sCD38中和試薬 8/8上市
輸血学会ランチョンセミナー実施
- * 輸血検査セミナーin九州 9/21実施
- * 機器見学 (リモート) の推進、Webセミナーの継続開催
機器見学 10施設, Webセミナー 6回 (登録者数 4,015名)
- * 精度管理調査の継続：11月実施予定
- * メンテナンスプランの充実、保守契約率の向上

2024年度の取り組み：営業・学術活動

3) 輸血事業のシェア 20%獲得

学術活動：輸血機器・試薬 紹介

(1) 第72日本輸血・細胞治療学会学術総会 展示 (5/30 - 6/1, 新宿)

・展示来場者数：231名 (197施設)

(2) 同 ランcheonセミナー (6/1)

・演題：『Grifols sCD38』基礎的性能評価
～血漿前処理用の可溶性リコンビナントタンパク質試薬～

・座長：松浦 秀哲 (藤田医科大学)

・演者：日高 陽子 (東邦大学医療センター大森病院)

・来場者数：170名



2024年度の取り組み：営業・学術活動

3) 輸血事業のシェア 20%獲得

学術活動：輸血機器・試薬 紹介

カイノス輸血検査セミナー in 九州 (9/21, 熊本)

・参加者：75名（講演），39名（実技）

(1) 講義（座長：熊本赤十字病院 吉田先生）

・演題1「当院における輸血検査体制について」（今村総合病院 井上）

・演題2「当院における輸血検査業務の紹介」（久留米大学医療センター 天木）

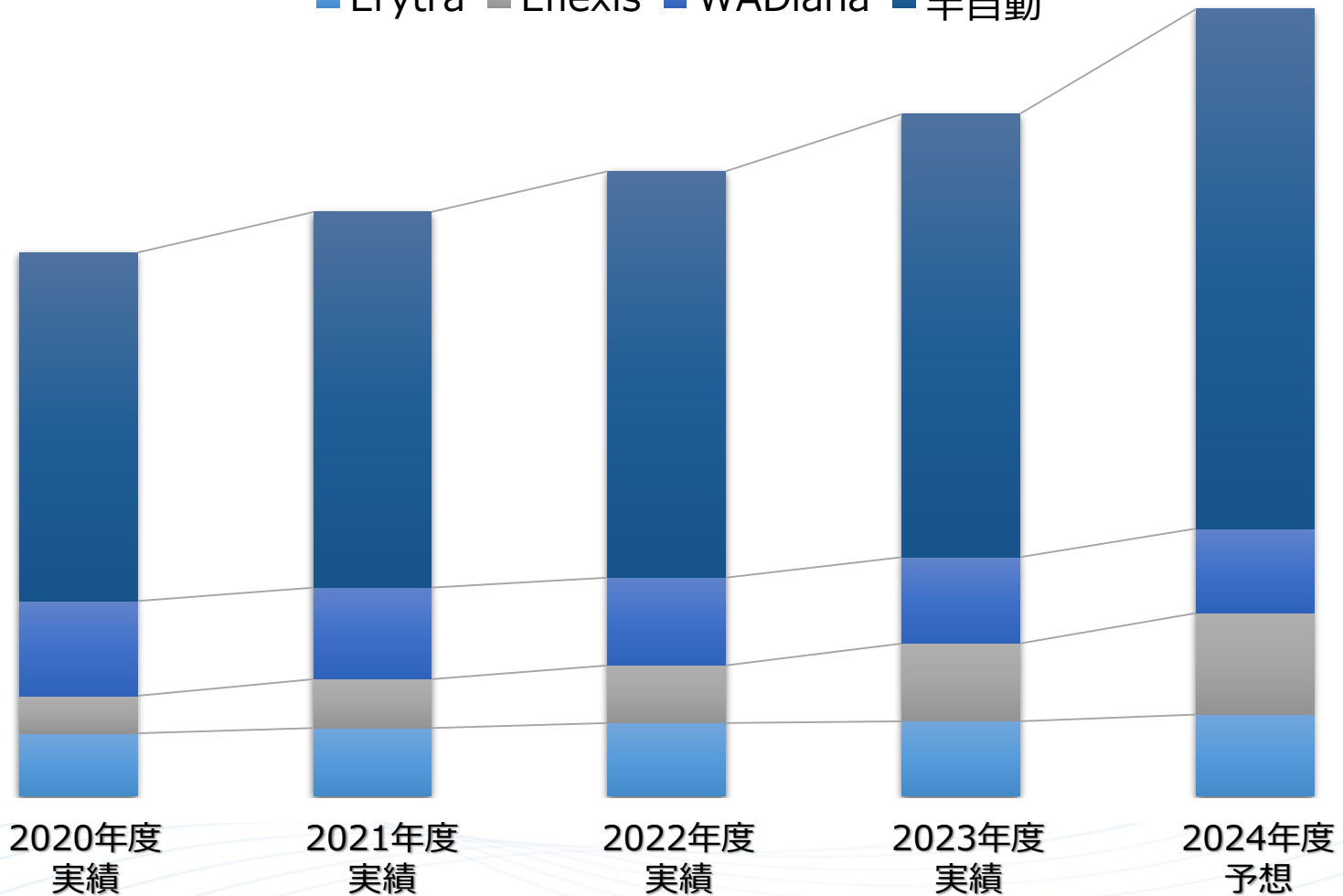
・演題3「当院における輸血検査業務の構築」（熊本赤十字病院 吉丸）

(2)実技：カラム凝集法



輸血機器台数推移

■ Erytra ■ Eflexis ■ WADiana ■ 半自動



新製品の開発

- 1) プロカルシトニン試薬の開発
- 2) HISCL試薬の項目拡充
- 3) NASBA核酸クロマト法
- 4) 他社との協業拡大
- 5) 輸血関連製品
- 6) 生化学試薬の改良

2024年度の取り組み：新製品開発

1) プロカルシトニン試薬の開発

LATECLE PCT試薬：1月発売
散乱光分析への適用など検討中

2) HISCL試薬の項目拡充

- ・婦人科・性腺ホルモン6項目の試薬：3月販売
複数分野・項目の試薬について開発継続中

3) NASBA核酸クロマト法 承認申請のデータ補完

- ・スィフトジーンSARS-CoV-2「カイノス」：7月一部変更承認

4) 他社との協業拡大

- ・新製品導入、製造受託、共同開発など継続協議中

2024年度の取り組み：新製品開発

5) 輸血関連製品

Grifols sCD38 (CD38組み換えタンパク)：8月発売



- ・ダラムマブによる間接抗グロブリン試験への干渉を回避する試薬※1
- ・37℃・15分の前処理で作業が完了※2

※1 抗CD38モノクローナル抗体が赤血球と結合するため、輸血検査で偽陽性になる。

※2 既存法は、検査に約2時間程度を要する。

顧客メリット (簡易操作・時間短縮) を訴求

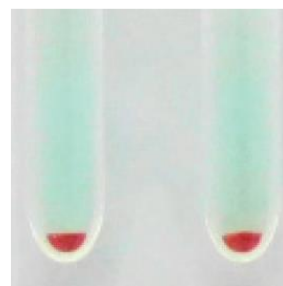
sCD38 未処理



偽陽性



sCD38 処理



陰性

2024年度の取り組み：新製品開発

6) 生化学試薬の改良

(1) **2本組 リキッドキャリブレーション**：9月発売

小包装：利便性の向上

容器変更：光に対する安定性の向上



(2) **アクアオート カイノス GLU-II 試薬**：10月発売

組成変更：熱安定性の向上、測定範囲の増加

(3) **クレアチニン (CRE) 試薬改良**

低値正確性の改良・安定性試験中

効率化・コスト削減

1) 用手法充填作業の自動化（笠間工場）

2024年度の取り組み：効率化

1) 用手法充填作業の自動化（笠間工場）

導入目的：

- ・機械化の促進、品質の安定化、小量容器・少数品番自動化
- ・現行機のバックアップ及び増産体制の構築

仕様・効果：

- ・品種切替が容易な機構、同日複数項目を充填可能
- ・用手法からの切替え対象製品：168品番（現行の約1/2を移行）
（残る用手法充填は凍結乾燥品や遺伝子試薬等の特殊製品のみ）
- ・品質安定化、効率アップによる原価低減、増産対応時間の確保

投資額 ： 1億 4千万円

設置予定 ： 2025年度見込

法令等への対応

- 1) 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
- 2) サステナビリティ・人的資本投資への取り組み

2024年度の取り組み：法令等への対応

1) 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

2024年度上期の対応： PBR改善に向けた取り組みの継続

- (1) ROE向上：収益性改善（純利益及び売上高純利益率の向上）
中間期 純利益：347 M¥, 売上高純利益率：13 %
- (2) 株主還元強化：中期計画における株主還元の検討
中期的な業績・利益成長に応じた、安定的かつ継続的な配当水準の向上
- (3) IR活動の強化：新製品開発等の事業活動の開示
株主・機関投資家への対応, 決算報告会
- (4) 設備投資 他：工場製造設備の投資, 有利子負債の返済
自動分注機 (25年度末設置・約140M¥), 短期借入 (240M¥) 9月返済

2024年度の取り組み：法令等への対応

2) サステナビリティ・人的資本投資への取り組み (1)

重要課題に紐付く 当社事業と連動した重要指標(KPI)設定

*2024年度 中期計画・2027年度目標より

(1) 社会的に有用な製品・サービスの開発

- ・営業：CREトップシェアへの推進，輸血機器シェア 20%確保
- ・業務：人的ミス 対出荷数量 0.01% 以下
- ・学術：再発を起こさない輸血機器技術レベルアップ
生化学ランニングレベルアップによる顧客満足度向上
- ・研究：設計起因苦情件数や設計変更数 年 0 件以下
- ・工場：異常逸脱流失防止及び再発事象ゼロ

(2) 働きやすい職場づくり

- ・総務：昇給率，教育費用，女性(ライン)管理職比率 12%以上

2024年度の取り組み：法令等への対応

2) サステナビリティ・人的資本投資への取り組み (2)

重要課題に紐付く 当社事業と連動した重要指標(KPI)設定

*2024年度 中期計画・2027年度目標より

(3) 環境保全活動の推進

- ・工場：節電効果の維持，廃棄物リサイクル効果の検証
SBTi認証等に向けたCO₂排出量算定開始
- ・総務：再利用率 84%以上，SBTi認定取り組み

(4) 企業倫理の徹底と社内体制整備

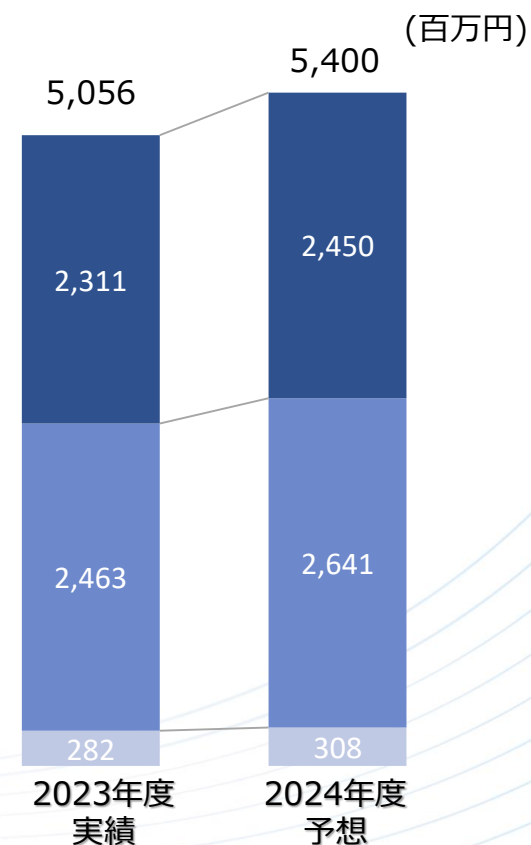
- ・総務：ハラスメント等履修 100%
- ・監査：ハラスメントの撲滅
全従業員へのコンプライアンス教育・資料定期配付

2024年度 予想

売上高(検査分野別)

CREはじめマルチ9項目の基幹施設での更なるシェアアップ
プロカルシトニンの垂直拡販
輸血機器のシェア拡大

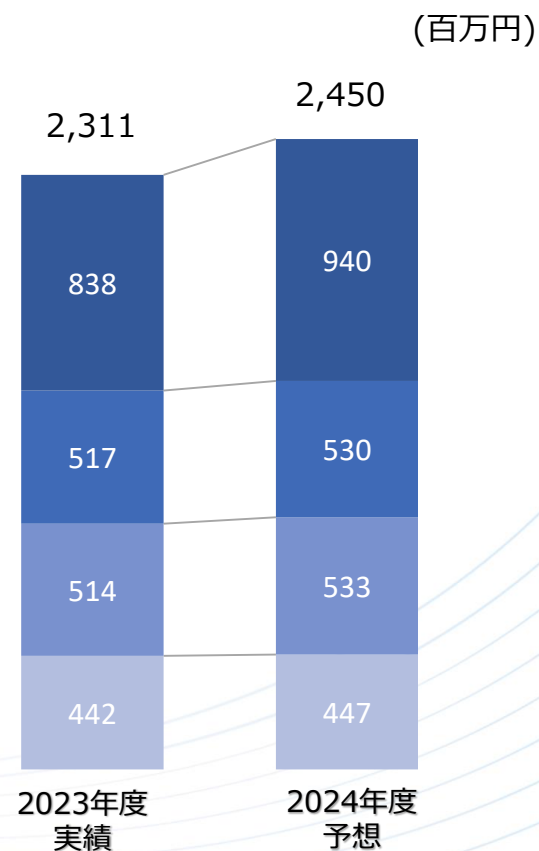
	2023年度 実績	2024年度 予想	前期比 増減額
生化学	2,311	2,450	139
免疫	2,463	2,641	178
その他	282	308	26
合計	5,056	5,400	344



売上高(生化学)

CREのトップシェア及び機器メーカーとの協業によるマルチ9項目の売上拡大

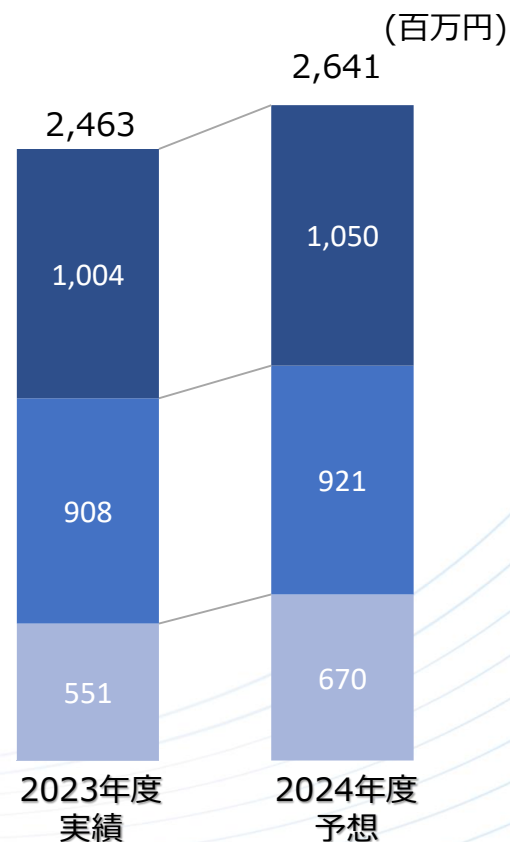
	2023年度 実績	2024年度 予想	前期比 増減額
腎機能	838	940	102
肝機能	517	530	13
糖尿病	514	533	19
その他	442	447	5
合計	2,311	2,450	139



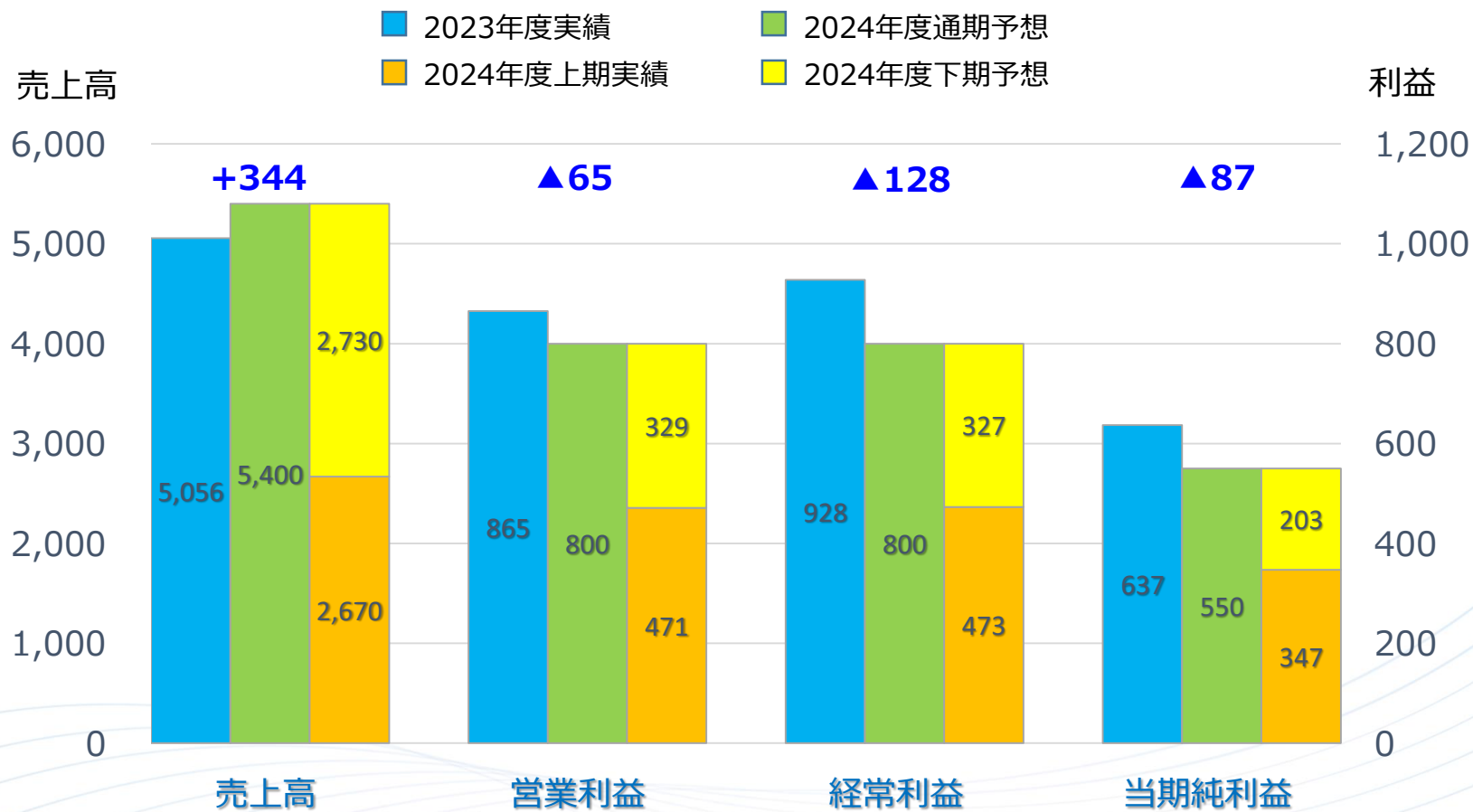
売上高(免疫)

プロカルシトニンの垂直拡販
輸血自動機のシェア20%獲得

	2023年度 実績	2024年度 予想	前期比 増減額
輸血 (除機器)	1,004	1,050	46
腫瘍 マーカー	908	921	13
その他	551	670	119
合計	2,463	2,641	178



2024年度 通期予想



2024年度 通期業績予想

(単位：百万円)

		2023年度 通期実績	2024年度 通期予想	増減額	増減率 (%)
売上高	製品	4,286 (84.8%)	4,670 (86.5%)	384	9.0
	商品	770 (15.2%)	730 (13.5%)	▲40	▲5.2
	計	5,056 (100 %)	5,400 (100 %)	344	6.8
営業利益		865	800	▲65	▲7.5
経常利益		928	800	▲128	▲128.6
当期純利益		637	550	▲87	▲13.8

その他

その他： 資本関係に関する話題

旭化成ファーマ： 診断薬事業を長瀬産業株式会社に譲渡
(2024年9月26日リリース)

・旭化成ファーマの体外診断薬及び診断薬用酵素の開発・製造・販売に関する全ての事業と、これらの製造や管理を担う、静岡県伊豆の国市にある大仁医薬工場，大仁統括センターを譲渡する診断薬事業の買収等を内容とした契約を長瀬産業と2024年 9月24日付で締結

・効力発生(予定)日：2025年7月1日

子会社(AKPが設立)が譲渡権利義務等を承継し同日付でAKPより長瀬産業に対しその全株式を譲渡予定

予想される当社への影響や対応について

(1)診断薬等ビジネス：影響小(新会社と取引継続予定)

(2)当社株式の扱い：未定(今後協議予定)

※ 現時点では具体的にお示しできる内容はありませんが、必要に応じ適切に開示等でお知らせいたします。

中期的展望

その他：中期的展望

1. 開発・販売

- ・クレアチニンをはじめとした主力分野（生化学）項目の継続的改良
- ・汎用機器向け試薬のラインナップ（プロカルシトニン以降）
- ・感染症項目のPOCT試薬（イムノクロマト他）上市
- ・他社への積極的な試薬導出

2. 生産

- ・自動充填機等の導入による生化学試薬20%生産増及び製造効率向上

3. 輸血事業

- ・保守作業の効率化（一部作業の外注化）
- ・機器リモート対応等による経費削減

4. その他

- ・外部からの積極的な人材確保
- ・SDGs（製品ボトルの再利用、外箱形体見直し）
- ・配送の効率化（共同配送等）

Creative Power & Innovation
Creative Power & Innovation

KAINOS
KAINOS LABORATORIES, INC.

本資料は、金融商品取引上のディスクロージャー資料ではなく、情報の正確性を保証するものではありません。本資料に記載されている業績予想等については、現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としており、今後様々な要因の影響から、本資料の予想とは異なる場合がありますことをご承知おきください。

本資料は投資勧誘や宣伝広告を目的としたものではなく、当社は、本資料の利用により生じたいかなる損害に対しても一切責任を負いかねます。